佐賀県教育センター

論文表記上の参考資料

（Ｒ８．３　改訂）

1　表記上の注意

(1)　漢字，仮名等の標記

漢字，仮名等の表記は次による。

ア　漢字　　常用漢字表（平成 22 年内閣告示第２号）の本表及び付表

イ　仮名遣い　　現代仮名遣い（昭和 61 年内閣告示第１号）

ウ　送り仮名　　送り仮名の付け方（昭和 48 年内閣告示第２号，昭和 56 年内閣告示第３号）

エ　ローマ字　　ローマ字のつづり方（昭和 29 年内閣告示第１号）

オ　外来語　　外来語の表記（平成３年内閣告示第２号）

また，「学習指導要領」，各教科・領域の「学習指導要領解説」の記述に準ずる。

※ 留意する表記や用語（小・中・高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説』等から）

児童のよい点	互いのよさ	児童生徒	よりよく	デジタル化	道徳科	コンピュータ
アイデア（小：図画工作，中：美術，高：芸術，情報など）			アイディア（中：英語，高：英語など）			
コミュニケーション	ハードウェア	レクリエーション	ボランティア			

(2)　「・」とする表記

小・中・高等学校の『学習指導要領解説総則編』に見られる表記を参考にする。

主体的・対話的	見方・考え方	資質・能力	体育・健康	体系的・継続的
興味・関心	横断的・総合的	合科的・関連的	基礎(的)・基本(的)	健康・安全
改善・克服	家族・家庭	基礎的・基本的	国家・社会	編成・実施
評価・改善	産業・経済	能力・適性	役割・立場	教材・教具
問題発見・解決	把握・分析	知・徳・体	アクティブ・ラーニング	
教育内容・方法	連携・協働	実践的・体験的	※観察・実験（観察，実験）	
技術・技能	改善・充実	組織的・計画的	※知識・技能（知識及び技能）	

＊　上記の表現については，原則である。したがって，前後の文章によって判断する。

(3)　句読点の使用

・読点は「,」または「、」を使用し，一つの論文中で統一する。(引用文内の読点もどちらかに統一する。)

・特に，接続詞のあとには，読点を打つ。　【例】「また～」→「また，～」「そして～」→「そして，～」

・長い文については，句点を打ち，幾つかの文に分ける。

・文末に括弧がある場合，それが部分的な注釈であれば，閉じた括弧の後に句点を打つ。

例）当事業は一時休止を決定した。ただし，年内にも再開を予定している（日程は未定である。)。

また，それが文章全体の注釈であれば，最後の文と括弧の間に句点を打つ。

例）当事業は一時休止を決定した。ただし，年内にも再開を予定している。(別紙として，決定に至った経緯に関する資料を付した。)

(4)　数詞の扱い

・基本的に，序数として使う場合は算用数字とし，慣用的な語は漢数字とするが，同一論文中で表記が統一されていればよい。(以下は，学習指導要領内で使用されている表記例)

１学年	１単位時間	１年間	一人一人	役割の一つ	一つ一つの動き	二つ目は
３点目	次の２点に	２語	第三に	二つの課題	二点説明する	一斉に
２学年間	２文	第２表	二種類	三つの柱	二人三脚	三者が

・１桁の数字は全角，２桁以上の数字は半角で表記する（３人，25 分，100 メートル)。

(5)　その他

「話し言葉」調の記述ではなく，「書き言葉」として記述する。（ただし，児童生徒の発言やワークシートの記述などはこの限りでない。）

2　研究論文のまとめ方と記入例

(1)　文書作成時の設定

ア　研究計画書，研究紀要などの文書は，特に指定がない限り，次のように様式設定をする。

用紙サイズ	：Ａ４判，縦用紙，横書き
１ページ字数	：46 字×42 行
フォント	：項目と本文で使い分ける。 ＜例１＞　項目：ゴシック体，本文：明朝体 ＜例２＞　項目：ＵＤデジタル教科書体Ｎ－Ｂ，本文：ＵＤデジタル教科書体Ｎ－Ｒ 英単語等には century 等を用いてもよい。
フォントサイズ	：10.5 ポイント
余白	：上余白 20mm，下余白 25mm，左右余白 18mm
表記	：この「佐賀県教育センター論文表記上の参考資料」に準ずる ※　表内の行数や行間は，特に指定はない。 ※　図や表の中の文字，図表のタイトルの文字については，8 ポイント以上とする。

イ　文字詰めの初期設定

・ワードの場合

ファイル→オプション→文字体裁を開き，「カーニング」の「半角英字と区切り文字」及び「文字間隔の調整」の「句読点のみを詰める」にチェックを入れる。

・一太郎の場合

ファイル→文書スタイル→スタイル→体裁タグより，「和文体裁」の中の「禁則処理」，「追い込み」，「括弧類の重なり処理」にチェックを入れる。

(2)　項目，タイトル，書き出しなど

項目の記号は，必要に応じて下記の使用順序で用いる。

大項目　→	次項目　→	（順次下位項目が必要な場合→）			
1（全角）	(1)（半角）	ア（全角）	(ｱ)（半角）	a（全角）	(a)（半角）
2	(2)	イ	(ｲ)	b	(b)
3	(3)	ウ	(ｳ)	c	(c)

［文章の中で項目分けが必要な場合は，　①，②，③，またはｉ，ⅱ，ⅲ等を使用する。］

項目１までは項目用のフォントを用いる（原則）

1		**研**	**究**	**の**	**～**						
（	1)		研	究	の	～					
		ア		研	究	の	～				
		（	ｱ)		研	究	の	～			
				a		研	究	の	～		
				（	a)		研	究	の	～	
（	a)										

＊　番号等の付け方は，左の例に準ずる。

＊　そのページの項目が（ａ）などの下位項目しかないときは，左詰にする場合もある。

(3)　図や表の挿入

図や表などの掲載については，下記のとおりとする。また，タイトル名は項目用のフォントを用いる。図・表などが一つしかない場合も，**図１**，**表１**などとする。

図・資料の場合……図・資料の下に（センタリング）　　表の場合……表の上に（センタリング）

表１■タイトル

（図） 絵，地図，グラフ 構造図など	（資料） 写真，児童の感想 ワークシートなど	（表） 記録や調査結果を 示す表など

図１■タイトル

資料１■○○○○○
○○○○○○

※タイトルが長い場合

※　センタリングし，全角１文字分空ける。（■は全角スペースを表す）

本文中で図・表などについて言及するときの表記

◇　本文中では，ゴシック表記。

＜例＞　実験の様子を**表５**に示した。

・・・を作成し（**資料４**），使用した。

「・・・」（**図３**）という質問について，

◇　文末に示す場合。

＜例＞　・・・」と記述している（**資料６**）。

◇　図・表などが別のページにある場合。

＜例＞　**前頁資料４**を基に，・・・

学習過程を**次ページ表１**に示す。

カード（**p. 17 資料８**）を活用し，

◇　図・表などの一部分を示したい場合。

＜例＞　**資料５**の**枠囲み部**のように

表１の**下線部**から，・・・

前ページ表１の１，２のように

(4)　引用の仕方

ア　引用の示し方

文章中の該当箇所の右肩に[1]，[2]（上付 1/4 倍）の通し番号で示す。※[1] 括弧，数字全て半角

＜例＞　‥‥であるが，梶田叡一は，「○○○‥‥」[1]と述べている。

巻末の引用文献欄には，右肩に示した番号を最初に示すことで，引用した書籍や紀要と対応させる。

イ　引用者名の表記

論文中で他の論者の文を引用する場合，初出時にはフルネームで記載。二度目からは姓だけでよい。ただし，同姓の者が複数いる場合は二度目以降もフルネームで記載する。

ウ　引用文には，「　　」の引用記号を用いる。

前後の文を省略する場合は，「…」（３点リーダー）を２文字分入れる。→「……」

＜例＞　「○○○……」（後略の場合）「……○○○」（前略の場合）

引用文中に「　　」の記述がある場合は，『　　』に置き換える。(「○○『○○』○○」)
引用は原文と一字一句違わないようにする。原文の誤植も「ママ」と示し，そのまま記入する。
＜例＞ 「……○○(ママ)……」(○○は誤植の部分を表す)

エ　長い引用の場合は別の段落にし，左右を１文字分空けておく。

オ　間接引用はなるべく行わないようにする。原文がいろいろと解釈される場合もあるので，直接引用の方がよい。

(5)　引用及び参考文献の書き表し方

ア　著者名，書籍名，発行年，出版社名（引用の場合はページ数も）の順で書く。

イ　引用のページは，そのページのみの場合はp. ７，複数ページの場合はpp. 14-17のように書く。pと－(ハイフン)，．(ピリオド）は半角とする。記述例（1）参照。

ウ　編集した人，著作し編集した人についても，「○○編」「○○編著」と正確に示す。

エ　書籍名には『　　』を付ける。
論文の場合は「　　」，その論文集（雑誌名）は『　　』と併記する。記述例（2）参照。
なお，答申は，『　　』，教育センターのコンテンツも『　　』を使用する。

オ　発行年は著作物に書かれている表記を用いる。(西暦なら西暦，元号なら元号)
西暦の場合は，半角数字とする。
元号の場合は，令和９年までは全角数字，10年以降は半角数字とする。

カ　引用文献の記述例

１行で書けない場合は，２行にまたがってよい。

《引用文献》

(1)■■山田■一郎編著　『総合学習のあり方』■1997年■教育書店■pp. 142-144　(または，p. 142)

(2)■■佐賀■太郎　「総合的な学習の時間における協働学習の取り入れ方に関する研究」『川上大学大学院教育実践論文集』■2017年10月号

(3)■■佐賀県教育センター■『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』■平成26年３月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm

(4)(5)■大和■春子　『どうつくる、探究活動』■2019年■佐賀書店■p. ８，p. 25

引用，参考それぞれの頭をそろえる。

《参考文献》

・鈴木■健一編著　『総合学習の理論』■2011年■大和書房

・浦川■仁一朗・森山■義太郎
『国語科の授業つくりを探る』　2013年　北館出版社

・松尾■信　『問題解決の過程において数学的な思考力を育む指導方法を探る』■2017年■教育図書社

書名の開始位置をそろえる。書名でなければ２行目は，『の真下から開始する。

・佐賀県教育センター　『理科力向上サポート事業』
http://www.saga-ed.jp/chouken/rikasaport/risapotop.html

参考にしたWeb資料も，参考文献として記す。ＵＲＬは，頭をそろえる。

３　その他，表記上の注意

・項目を表す番号，アルファベットの後は**１マス空ける**。

・記号(○，・など)の後はスペースを空けなくてもよい。空けない場合は，２行目以降の文頭は１行目の文頭にそろえる。

・半角英数字は，century や Times New Roman に自動変換する場合があるので注意する。

悪い例…PISA 学力調査，2017 年，ALT，45 分授業など

・英字は次のような表記にする。(原則)

英文や単語は，半角で，語頭・文頭だけ大文字を使う。

＜例＞　Web，“What's this?”

単語の頭文字を組み合わせて意味を成すものは，全角で，全て大文字を使う。

＜例＞　ＡＬＴ，ＴＴ，ＩＣＴ

・英文を入れる場合は，カギ括弧（「○○」）ではなく，quotation mark（“○○”）でくくる。

・動詞として漢字表記をするものも，補助用言として使う場合は仮名表記とする。

＜例＞　［お菓子を頂く・発表して**いただく**］［資料を下さい・お座り**ください**］

［資料が欲しい・発表して**ほしい**］

・網掛けは，濃淡に注意する。

・「　　」に文章が続く場合は，句点（。）を付けない。ただし，「　　」内に複数の文章がある場合は，最後の文より前の文には句点を付ける。

＜例＞

……本時の課題を次のように設定した。「じしゃくにつくものつかないものを調べよう。」

（「　　」の後ろに文章が続かないので，句点を付ける。）

……事前のアンケートの中でＡ児は，「どう接していいか分からない」と答えていた。

（「　　」の後ろに文章が続くので，句点を付けない。）

……Ｂ児は，「ビーカーの下の方は冷たいよ。水は上の方から温まっていくみたいだ」とつぶやいていた。

（「　　」に複数の文章があるときは，最後の文だけ句点を付けない。

・**文中（箇条書きを含む）の（ ），「 」は全角**とする。

ただし，項目を表す場合や引用の場合は半角である。例：(1)

・％，℃は全角，mm，cm，m，mL，dL，L，g，kg は半角。

4　研究論文の表記について

表中の，△は表外漢字・常用漢字外。〔　　〕は望ましい語句，＊は許容を示しています。

見　出　し	表　記	備　　考
【あ】		
あいさつ	挨拶	
あいだがら	間柄	
あいにく	あいにく	△生憎
あいまい	曖昧	
あいまって	あいまって	△相俟って
あえて	あえて	あえて～する
あきらめる	諦める	
あくる	明くる	明くる日
あげく	挙げ句	～した挙げ句
あける	明ける	夜が明ける
	空ける	時間を空ける
	開ける	窓を開ける
あげる	上げる	品物を上げる
		物価が上がる
	揚げる	船荷を揚げる
		歓声が揚がる
	挙げる	一例を挙げると
		国を挙げて
	～（て）あげる	図書を貸してあげる
あこがれる	憧れる	
あたかも	あたかも	△恰も
あたり	辺り	辺り一面
あたりまえ	当たり前	
あたる	当たる	予報が当たる
		～に当たり，
		～に当たって，
あっせん	あっせん	△斡旋〔周旋，世話〕
あつらえる	あつらえる	△誂える
あて	宛	宛名，宛先
		各学校宛て
あてはまる	当てはまる	
あてる	当てる	日光に当てる
		当て外れ
	充てる	保安要員に充てる
あと	後	後で～する
あと	あと（副詞）	あと三分
	あと（接続詞）	あと，～
		～したあと
	跡	苦心の跡，跡目
	痕	傷痕
あまり	余り	余りが出る
		余りにも
あらかじめ	あらかじめ	△予め
あらためて	改めて	改めて～する
あらゆる	あらゆる	△所有
あらわす	表す	言葉に表す
	現す	姿を現す
	著す	書物を著す
あらわれる	表れる	喜びの現れ
	現れる	太陽が現れる
ありか	在りか	△在り処，在処
ありかた	在り方	
ありがたい	有り難い	有り難み
ありがとう	ありがとう	
ある（連体詞）	ある	ある日
ある（動詞）	ある	そこに問題がある
	有る	財源が有る
		有り・無し
	在る	本社は東京に在る
	～（て）ある	書いてある
あるいは	あるいは	△或いは
あわせて（副詞）	併せて	併せてお願いする
あわせて（接続詞）	あわせて	あわせて，～
【い】		
いう	言う	彼の言うこと
	～いう	～という場合
	いう	こういうこと
いえども	いえども	〔～でも，～であっても〕
いえる	言える	～と言える
いかす	生かす	△活かす〔活用する〕
いきおい	勢い	勢いが悪い
いけい	畏敬	
いく	行く	学校へ行く
	…（て）いく	実施していく

見　出　し	表　記	備　　考
いくつ	幾つ	
いくら	幾ら	幾ら考えても
		全部で幾らか
いしゅく	萎縮	
いす	椅子	
いずれ	いずれ	△何れ
いだく	抱く	△懐く
いたす	致す	致し方ない
		繁栄を致した原因
	～いたす	御案内いたします
いたずら	いたずら	いたずらに時間を費やす
いただく	頂く	御返事を頂きたい
	～（て）いただく	報告していただく
いたって	至って	至って～である
いたる	至る	東京に至る
		至る所に
いちじ	一時	一時の出来心
いちず	いちず	いちずに思う
		△一途
いちづける	位置付ける	△位置づける
いっこう	一向	一向に差し支えない
いっさい	一切	一切関知しない
いっしゅう	一蹴	
いっしょ	一緒	一緒に行く
いっせい	一斉	一斉検査
いっそう	一層	一層の努力
いったん	一旦	一旦休憩する
いっぺんに	一遍に	一遍に～する
いまさら	今更	
いまだ	いまだ	△未だ
いやしくも	いやしくも	△苟も
いる	入る	気に入る
		手に入れる
	要る	保証人が要る
	居る	居場所，居所
	いる	関係者がいる
		～している

	煎る	煎茶
いろいろ	いろいろ	△色々
いわば	言わば	
いわゆる	いわゆる	△所謂
いわんや	いわんや	△況や
		〔言うまでもなく〕
【う】		
うえ	上	作成する上で
うかがう	うかがう	△窺う
		成長がうかがえる
うかがう（聞く，尋ねる，訪問するの謙譲語）	伺う	10 時に伺います
うた	唄	長唄，小唄
うたう	うたう	条文にうたってある
うち	内	部屋の内
	うち	そのうち
		～のうち
		知らないうちに
うちわけ	内訳	
うつ	打つ	リズムを打つ
うながす	促す	
うやうやしい	恭しい	
うらやましい	羨ましい	羨望
うらやむ	羨む	
うんぬん	うんぬん	△云々
【え】		
えさ	餌	
える	得る	許可を得る
		やむを得ない
【お】		
お（接頭語）	お	お礼
		お願いします
おいて	おいて	△於いて
		～において
おうせい	旺盛	旺盛
おおいに	大いに	大いに利用する
おおかた	大方	大方の意見
		大方まとまる
おおぜい	大勢	
おおむね	おおむね	△概ね
おおよそ	おおよそ	△大凡

見　出　し	表　記	備　　考
		おおよそ２か月くらい
おかげ	おかげ	△お陰
		おかげで～
おこない	行い	△行ない
おこなう	行う	調査を行う
		△行なう
おくびょう	臆病	臆する
おさめる	収める	目録に収める
	納める	注文の品を納める
	治める	領地を治める
	修める	学を修める
おそらく	恐らく	
おそれ	おそれ	～のおそれがある
おそれ	畏れ	畏れ多い言葉
おって（副詞）	追って	
おとさた	音沙汰	〔便り，音信〕
おとな	大人	
おのおの	各，各々	
おのずから	おのずから	△自ら
		おのずから理解できる
おびただしい	おびただしい	△夥しい
おぼしめし	おぼしめし	△思召し
おぼつかない	おぼつかない	△覚束ない
おもしろい	面白い	
おもに	主に	
おもむき	趣	
おもむく	赴く	任地に赴く
おもわく	思わく	△思惑
およそ	およそ	△凡そ
および（接続詞）	及び	A及びB
およぼす	及ぼす	
おり	折	その折
おりから	折から	△折柄
おる	おる	△居る
		～しております
おわり	終わり	△了
【か】		
か	か	３か月（１，２か月）
	箇	二，三箇所

かじょうがき	箇条書	
かい	かい	△甲斐
		～したかいがあって
がいして	概して	概して良好である
かいしょ	楷書	
かいよう	潰瘍	潰す
かえって	かえって	△却って
		かえって不便になる
かえりみる	顧みる	過去を顧みる
	省みる	自らを省みる
かえる	変える	観点を変える
	換える	名義を書き換える
	替える	振り替える
	代える	書面をもって挨拶に代える
かかる	かかる	△斯る
		〔このような〕
	かかる	△罹る
		病気にかかる
	係る	～に係ること
		△関る
かかわり	関わり	△～にも関わらず
かかわる	関わる	
かく	描く	国境線を描く
かぐ	嗅ぐ	嗅覚
がけ	崖	断崖，崖下
かける	掛ける	迷惑を掛ける
		時間を掛ける
		費用を掛ける
	懸ける	優勝を懸ける
		賞金を懸ける
	架ける	橋を架ける
		電線を架ける
かこく	苛酷	＊過酷
かする	課する	税を課する
	科する	刑を科する
かたがた	かたがた	お礼かだがた
かたづけ	片付け	
かたづける	片付ける	

見　出　し	表　記	備　　考
かたわら	傍ら	歩道の傍ら
がち（接尾語）	～がち	～しがち
		～ありがち
かつ	かつ	△且つ
かっきてき	画期的	
かっこ	括弧	
かつて	かつて	△嘗て
かって	勝手	勝手が違う
		勝手次第
かっとう	葛藤	
かっぱつ	活発	
かな	仮名	片仮名，平仮名
		仮名遣い
かなう	かなう	△叶う，適う
かなた	かなた	△彼方
かならず	必ず	
かまう	構う	構わない
		費用に構わず
		お構いなく
	～（て）もかまわない	外出してもかまわない
がまん	我慢	
かもしれない	～かもしれない	△かも知れない
		間違いかもしれない
からめる	絡める	
かろうじて	辛うじて	
かんがみる	鑑みる	
かんげき	間隙	
かんじん	肝心	△肝腎
		肝心要
		肝心な事柄
かんする	関する	～に関する～
かんぺき	完璧	
【き】		
きがかり	気掛かり	
きぐ	危惧	
きする	期する	～を期して
きそん	毀損	
きたす	来す	支障を来す
きたる	来る	来る○月○日
きづき（きづく）	気付き（気付く）	△気づき（きづく）
きはく	希薄	△稀薄
きふ	寄附	
きまり	きまり	きまりに関する
	決まり	決まり方
きゅうかく	嗅覚	
きゅうきょ	急きょ	△急遽
きゅうし	臼歯	
きる	切る	
きる	斬る	世相を斬る
きわまる	窮まる	進退窮まる
		窮まりなき宇宙
	極まる	不都合極まる言動
きわめて	極めて	極めて大きい
きわめる	極める	見極める
	究める	学を究める
きんさ	僅差	
【く】		
ください	下さい	資料を下さい
	ください	御指導ください
		御覧ください
	～（て）ください	問題点を話してください
くだす	下す	判決を下す
くみあわせる	組み合わせる	
くみたてる	組み立てる	
くむ	酌む	酒を酌む
		事情を酌む
くらい	位	位する
		位取り
	～くらい（ぐらい）	どのくらい
くらべる	比べる	△較べる
くる	来る	人が来る
	～（て）くる	寒くなってくる
くれぐれも	くれぐれも	△呉々も
くれる	くれる	△呉れる
	～（て）くれる	資料をくれる
		援助してくれる
くろうと	玄人	

見　出　し	表　記	備　　考
【け】		
げ（接尾語）	～げ	惜しげもなく
		△～気
けいがいか	形骸化	
けいもう	啓もう	△啓蒙〔啓発〕
けた	桁	３桁，橋桁
けっこう	結構	結構な品物
		結構です
	けっこう	けっこう役に立つ
けんさん	研さん	△研鑽
けんそん	謙遜	
けんばん	鍵盤	
【こ】		
ご（接頭語）	御～	御案内
		御調査のほど
	ご～	ごあいさつ
		ごべんたつ
		（仮名書きの場合）
ごい	語彙	
こう	乞う	雨乞い
こうばい	勾配	
ごうまん	傲慢	
こうむる	被る	損害を被る
こうよう	高揚	△昂揚
こえる	越える	山を越える
		年を越す
	超える	10 万円を超える額
		1000 万人を超す人口
こかんせつ	股関節	
ごく	ごく	△極
		ごく新しい
こけつ	虎穴	
こころがけ（る）	心掛け（る）	
ごぞんじ	御存じ	△御存知
		御存じですか
こたえ（名詞）	答え	
こたえる	答える	質問に答える
	応える	要望に応える
		（～に応じる）
こっけい	滑稽	
こと	事	事を起こす
		事に当たる
	～こと	許可しないことがある
ことがら	事柄	次の事柄について
ごと	～ごと	△毎
ごとく	ごとく	△如く
		〔ように〕
ことさら	殊更	殊更～する
ことなる	異なる	意見が異なる
		～を異にする
ことに	殊に	殊に優れている
ことのほか	殊の外	
こども	子供	
こどもたち	子供たち	
ことわる	断る	断りの手紙
このごに～	この期に～	この期に及んで
このような	このような	
ごぶさた	御無沙汰	
こむ	混む	電車が混む
	込む	読み込む
こもる	籠もる	閉じ籠もる
ころ	頃	日頃
こんてい	根底	
コンピュータ	コンピュータ	△コンピューター
【さ】		
ざせつ	挫折	
さいはい	采配	
さいわい	幸い	幸いだ
		幸い間に合った
さかのぼる	遡る	
さき	先	先に立つ
		先取り，先んずる
さきに	さきに	さきにお知らせ
さきほど	先ほど	△先程
さげすむ	蔑む	
ささいな	ささいな	△些細な
ささげる	ささげる	△捧げる
さしあげる	差し上げる	
さしあたり	差し当たり	

見　出　し	表　記	備　　考
さしえ	挿絵	
さしかかる	差し掛かる	
さしさわり	差し障り	
さしず	指図	
さしずめ	さしずめ	△差し詰め
		さしずめ計画どおりに実施する
さしだす	差し出す	紹介状を差し出す
さしだしにん	差出人	
さしつかえる	差し支える	
さしつかわす	差し遣わす	
さすがに	さすがに	△流石に
ざせつ	挫折	
さっきゅう	早急	早急に手配する
さっそく	早速	早速送付する
さばく	さばく	△捌く
		品物をさばく
	裁く	罪人を裁く
さほど	さほど	さほど重要でない
さまざま	様々	
さらい～	再来～	再来週，再来月，再来年
さらなる（連体詞）	更なる（連体詞）	
さらに（副詞）	更に	更に検討する
さらに（接続詞）	さらに	さらに，～
さる	去る	去るに当たって
		去る○日
さわやか	爽やか	
さわる	障る	気に障る
		差し障る
	触る	展示品に触る
		手触りがよい
さんけい	参詣	
ざんしん	斬新	
さんろく	山麓	
【し】		
しあわせ	幸せ	
しいて	強いて	
しいてき	恣意的	

しかた	仕方	仕方がない
しかる	叱る	※叱責，叱咤
しくみ	仕組み	機械の仕組み
しげき	刺激	
しごく	至極	至極もっともである
しさい	子細	△仔細
		子細があって
しじゅう	始終	始終～する
しだい	次第	式次第
		～する次第である
		次第に～する
したがう	従う	法律に従う
したがって（接続詞）	したがって	△従って
		したがって～
じつに	実に	
しばしば	しばしば	
しばらく	しばらく	△暫く
しぼる	絞る	手ぬぐいを絞る
		絞り染め
	搾る	乳を搾る
		搾り取る
しまつする	始末する	書類を始末する
シミュレーション	シミュレーション	×シュミレーション
しめきり	締切り	申込みの締切り
		締切日
しゃりょう	車両	△車輛
しゅうちしん	羞恥心	
じゅうぶん	十分	△充分
じょうず	上手	
じょうぶ	丈夫	丈夫な体
しょせん	所詮	
しりぞける	退ける	△斥ける
しろうと	素人	
しんし	真摯	
しんしょく	侵食	△侵触
しんせき	親戚	
じんだい	甚大	被害甚大
しんちょく	進捗	
じんもん	尋問	△訊問

見　出　し	表　記	備　　考
【す】		
すいせん	推薦	
ずいぶん	随分	随分早く着いた
すえおき	据置き	
すえおく	据え置く	
すき	隙	隙間
すぎない	すぎない	～にすぎない
すぎる	過ぎる	期限が過ぎる
すくなくとも	少なくとも	
すぐに	すぐに	△直に
すぐれる	優れる	△勝れる
すこし	少し	
すすめる	進める	交渉を進める
	勧める	入会を勧める
	薦める	候補者として薦める
ずつ	ずつ	１つずつ 少しずつ
すでに	既に	既に完成している
すなわち	すなわち	△即ち
すばらしい	すばらしい	△素晴らしい
すべて	全て	△総て
すみやかに	速やかに	速やかに実施する
すりあわせる	擦り合わせる	
すわる	座る	座り込む
	据わる	目が据わる
【せ】		
せいとん	整頓	
せっかく	せっかく	△折角
せつに	切に	切に祈る
ぜひ	是非	是非を論ずる 是非お願いします
せん	栓	消火栓
せん	腺	涙腺，前立腺
せんさく	詮索	
せんぼう	羨望	
【そ】		
ソ・ソウ	曽（曾）	曾祖父
そう	沿う	意見に沿う 川沿いの家
	添う	連れ添う 付き添い
そうかい	爽快	
ぞうきん	雑巾	
そうごう	総合	△綜合
そうじて	総じて	
そうそうに	早々に	
そうてい	装丁	
そうとう	相当	部長に相当する 相当難しい
そうにゅう	挿入	
そうめい	そうめい	△聡明 〔賢明，賢い〕
そち	措置	
そっせん	率先	
そば	そば	△側，△傍
そまつな	粗末な	
それ	それ	それぞれ，それら，それゆえ
そろう	そろう	△揃う ＊品揃え
ぞんずる	存ずる	それがよいと存じます 御存じの～
【た】		
た	他	その他
たいがい	大概	大概大丈夫だろう
たいした	大した	大したことはない 大して参考にならない
だいじょうぶだ	大丈夫だ	もう大丈夫だ
たいせき	堆積	
たいせつに	大切に	
たいそう	大層	大層明るい
だいたい	大体	大体よい 大体のところは
たいてい	大抵	大抵のことは分かる
たいとう	台頭	
だいぶ（ん）	大分	大分増えた
たいへん	大変	大変な人出
たえず	絶えず	絶えず行き来する

見　出　し	表　記	備　　考
たがいに	互いに	互いに励まし合う
たぐい	類い	
たくさん	たくさん	△沢山
たけ	丈	身の丈
		思いの丈を述べる
だけ	～だけ	調査しただけである
たしょう	多少	多少早くなる
たずねる	尋ねる	由来を尋ねる
		尋ね人
	訪ねる	知人を訪ねる
		史跡を訪ねる
ただ	ただ	△唯，只
ただし（接続詞）	ただし	△但し
ただちに	直ちに	
たち（接尾語）	～たち	△達
		子供たち，私たち
		※友達…熟語として漢字
たちのく	立ち退く	立ち退き
たちまち	たちまち	△忽ち
たつ	断つ	退路を断つ
	絶つ	縁を絶つ
		消息を絶つ
	裁つ	生地を裁つ
たて	盾	△楯
たとえば	例えば	
たのもしい	頼もしい	
たび	度	度重なる
		度々
	～たび	このたび
		～するたび
たぶん	多分	多分～であろう
たまわる	賜る	
ため	ため	△為
		ために
		～のため
だめ	駄目	駄目を押す
ためす	試す	切れ味を試す
だれ	誰	

【ち】		
ちいさな	小さな	
ちかごろ	近頃	
ちかづく	近付く	△近づく
ちくいち	逐一	逐一報告する
ちなみに	ちなみに	△因みに
ちなむ	ちなむ	△因む
ちみつ	緻密	
ちょうだい	頂戴	
ちょうど	ちょうど	△丁度
ちょっと	ちょっと	△一寸
ちんでん	沈殿	△沈澱
【つ】		
ついたち	一日	※月の始めの日という慣用句的扱い
	＊12月１日	
ついで	次いで	
ついでに	ついでに	ついでに仕事も頼む
ついては（接続詞）	ついては	△就いては
		ついては，～
ついに	ついに	△遂に
		ついに完成する
つかう	使う	機械を使う
		重油を使う
	遣う	心を遣う
		小遣い銭
		仮名遣い
つかわす	遣わす	差し遣わす
つき	～付き	折り紙付き
		尾頭付き
	つき	顔つき，目つき
		体つき
つぎ	次	次のとおり
		次々と
つく	付く	△附く
		利息が付く
		味方に付く
	着く	手紙が着く
		船を岸に着ける

見　出　し	表　記	備　　考
	就く	職に就く
		役に就ける
つぐ	次ぐ	事件が相次ぐ
		取り次ぐ
	継ぐ	跡を継ぐ
		引き継ぐ
	接ぐ	木を接ぐ
		接ぎ木
つくる	作る	おもちゃを作る
~~つくる~~	造る	船を造る
~~つくる~~	創る	新しい文化を創り出す
	つくり	＊課題づくり
		＊授業づくり
づけ	～付け	○月○日付け
		日付
つける	付ける	条件を付ける
		付け替える
		関連付ける
つごう	都合	都合で
		都合○名
つたない	拙い	
つつしむ	慎む	身を慎む
つづる	つづる	△綴る
		文をつづる
		書類をつづり込む
＊ぶんしょつづり	＊文書綴り	
つど	都度	その都度
つとめて	努めて	努めて早起きする
つとめる	努める	解決に努める
	勤める	会社に勤める
	務める	議長を務める
		主役を務める
つながる	つながる	△繋る
つねに	常に	
つまずき	つまずき	
つもり	積もり	心積もり
		※見積り
	つもり	そのつもりだ

【て】		
てあて	手当	手当を支給する
	手当て	傷の手当て
ていしょく	抵触	
ていねい	丁寧	
ておくれ	手遅れ	
てがかり	手掛かり	
でかける	出掛ける	
でき	出来	出来心，出来事
		出来上がる
		出来上がり
		出来が良い
～でき	～出来	上出来，不出来
デキ	＊溺	＊溺愛
できる	できる	△出来る
		利用できる
		できるだけ～
てぎわ	手際	手際が良い
てごろ	手頃	手頃な大きさ
てだて	手立て	△手だて
てはず	手はず	△手筈
		手はずを整える
てびき	手引き	指導の手引き，手引書，手引きをする
てもと	手元	△手許
【と】		
といあわせ	問合せ	問合せをする
といあわせる	問い合わせる	
～とう	～等	「など」と読ませたいときは仮名
とうがい	当該	
どうくつ	洞窟	
どうし	同士	児童同士
どうじょう	同上	
とうてい	到底	到底できない
とうとう	とうとう	とうとう決定した
とおり	通り	銀座通り，一通り
	～を通して	
	～とおり	次のとおりである
		従来どおり
とかく	とかく	△兎角
		とにかく

見　出　し	表　記	備　　考
		とにもかくにも
とき	時	時の記念日
	～とき	事故のときは連絡する
		～したとき
とく	解く	問題を解く
		疑いが解ける
		会長の任を解かれる
	溶く	絵の具を溶く
		地域社会に溶け込む
とくに	特に	
どこ	どこ	△何処
ところ	所	△処
	～ところ	現在のところ差支えない
ところが（接続詞）	ところが	
ところで（接続詞）	ところで	
とじる	とじる	△綴じる
		紙をとじる
	閉じる	門を閉じる
とつぜん	突然	
ととのえる	整える	身辺を整える
		調子を整える
	調える	晴れ着を調える
		費用を調える
とどめる	とどめる	△止める，△留める
		記録にとどめる
とはいうものの	とはいうものの	
とはいえ	とはいえ	
とめる	止める	息を止める
	留める	ボタンを留める
		留め置く，書留
	泊める	客を泊める
とも	共	教師と児童が共に

		共に（副詞）
		共々（副詞）
	～とも	～とともに
		～するとともに
		今後とも
		家庭や地域とも
		△共
ともだち	友達	
ども（接尾語）	ども	私ども
ともなう	伴う	～に伴って
とらえる	捕らえる	泥棒を捕らえる
~~とらえる~~	捉える	機会を捉える
とりあえず	取りあえず	△取り敢えず
		取りあえず御報告まで
とりあげる	取り上げる	
とりいれる	取り入れる	
とりかかる	取り掛かる	仕事に取り掛かる
とりくみかた	取り組み方	
とりくむ	取り組む	
とりはからう	取り計らう	
とりまとめ	取りまとめ	
とりもどす	取り戻す	
とりやめ	取りやめ	△取り止め
とりわけ	とりわけ	
とりわける	取り分ける	
とる	とる	バランスをとる
		形態をとる
		食事をとる（する）
	取る	感じ取る
		アンケートを取る
		メモを取る
		連絡を取る
		コミュニケーションを取る
	摂る	栄養を摂る
	採る	会議で決を採る
	執る	事務を執る
		式を執り行う
	捕る	生け捕る
	撮る	写真を撮る

見　出　し	表　記	備　　考
【な】		
ない	ない	△無い
		欠点がない
		行かない
		有り・無し
	亡い	亡くなる
		亡き人
ないし	ないし	△乃至
		北ないし北東の風
なお	なお	△尚，猶
		なお，～
		なおさら
なか	中	箱の中，括弧の中
ながい	長い	長い道，気が長い
	永い	末永く契る
なかなか	なかなか	なかなか現れない
なかば	半ば	半ば諦める
ながら	ながら	△乍ら
		歩きながら話す
なごり	名残	
なさけ	情け	情けない
なざし	名指し	
なされる	なされる	△成される
なじむ	なじむ	△馴染む
なす	なす	△為す
		なすすべもない
なぜ	なぜ	△何故
～など	～など	△等は「とう」と読む
ななめ	斜め	
なにとぞ	何とぞ	△何卒
なにぶん	何分	何分よろしく
なみなみ	並々	並々ならぬ
ならう	倣う	前例に倣う
ならびに（接続詞）	並びに	（a及びb）並びに（c並びd）
なりたつ	成り立つ	
なりゆき	成り行き	

なる	成る	△為る
		本表と付表とから成る
	なる	１万円になる
		小さくなる
なるべく	なるべく	なるべく早くする
なるほど	なるほど	△成程
【に】		
におう	匂う	梅の花が匂う
におう	臭う	生ゴミが臭う
にぎわう	にぎわう	△賑わう
にくい	憎い	△～憎い，～難い
		言いにくい
になう	担う	△荷う
		双肩に担う
にらむ	にらむ	△睨む
		にらみ合わせる
にわか	にわか	△俄
		にわかに事が運ぶ
【ぬ】		
ぬぐう	拭う	
【ね】		
ねりなおす	練り直す	
ねらい	狙い	＊授業や指導においては「ねらい」と仮名表記
【の】		
のうり	脳裏	△脳裡
のがす	逃す	逃れる
のける	のける	△除ける
のちほど	後ほど	後ほど連絡する
のっとる	のっとる	△則る
		〔基づく，従う，よる，即する〕
のばす	伸ばす	勢力を伸ばす
		学力が伸びる
	延ばす	開会を延ばす
		支払いが延び延びになる
のべる	延べる	布団を延べる
~~のべる~~	伸べる	救いの手を差し伸べる
のむ	飲む	△呑む

見　出　し	表　記	備　　考
【は】		
はあく	把握	
はいぜん	配膳	
はいる	入る	
はえる	栄える	見栄え，出来栄え
はがき	はがき	△葉書
はがす	剥がす	剥ぐ
はかどる	はかどる	△捗る
はからずも	図らずも	
ばかり	～ばかり	こればかり
		～するばかり
はかる	図る	合理化を図る
		解決を図る
	計る	時間を計る
		計り知れない恩恵
	測る	距離を測る
		面積を測る
	量る	目方を量る
		容積を量る
	謀る	暗殺を謀る
	諮る	審議会に諮る
はぐくむ	育む	育んだ，育み
ばくぜん	漠然	漠然とした
ばくだい	ばくだい	△莫大，［多大］
はさむ	挟む	挟み込む
はじめ	はじめ	各学年のはじめ
		教職員をはじめ
		～をはじめとして
	始め	始め-中ー終わり
はじめて	初めて	初めての経験
はじめ（る）	始める	思考し始める
		始めから終わりまで
はず	はず	△筈
		できるはずがない
はずれる	外れる	町外れ，外す
		踏み外す

はたして	果たして	果たして～だ
はつらつ	はつらつ	△撥剌
はで	派手	
はなしあう（動詞）	話し合う	話し合った
はなはだ	甚だ	甚だ大きい
		甚だしい
はば	幅	△巾
はばかる	はばかる	△憚る
はばむ	阻む	
はやい	早い	時期が早い
		矢継ぎ早
	速い	流れが速い
		テンポが速い
はらいもどし	払戻し	払戻金，払戻証書
はらいもどす	払い戻す	
はる	張る	リンクを張る
	貼る	シールを貼る
はれる	腫れる	※腫らす
はんてん	斑点	
はんようせい	汎用性	
はんれい	凡例	
【ひ】		
ひいては	ひいては	△延いては
ひきおこす	引き起こす	△惹き起こす
ひごと	日ごと	△日毎
ひごろ	＊日頃	
ひづけ	日付	
ひとかたならぬ	一方ならぬ	
ひとしお	ひとしお	△一入
ひとしく	ひとしく	△斉しく
		全員ひとしく賛成した
ひとそろい	一そろい	△一揃
ひとたび	一たび	△一度
ひととおり	一通り	
ひとまず	ひとまず	△一先ず
ひとり	一人	一人っ子
		一人一人
		△一人ひとり
	独り	独り占め

見　出　し	表　記	備　　考
ひとわたり	ひとわたり	△一渡り
ひゆ	比喩	
ひよく	肥沃	
ひょうき	表記	表記の金額
		国語の表記
	標記	標記のことについて
ひらく	開く	窓を開く，未来を開く，△拓く
ひろがる	広がる	△拡がる
びんせん	便箋	
ひんぱん	頻繁	
【ふ】		
ふ	附	附則, 附属, 附帯
		附置，寄附
	付	付記, 付随, 付与
		付録, 交付, 給付
ふう	風	洋風，学者風の人
	～ふう	こういうふうに造る
		知らないふうを装う
ふえる	殖える	財産が殖える
	増える	人数が増える
ふく	拭く	
ふさぐ	塞ぐ	塞がる
ふさわしい	ふさわしい	△相応しい
ふじゅうぶん	不十分	△不充分
ふせん	付箋	
ふたたび	再び	
ふだん	ふだん	△普段
		ふだん考えていること
ふっしょく	払拭	拭く，拭う
ふまえ	踏まえ	～を踏まえて
ふりがな	振り仮名	
ふるう	振るう	腕を振るう
		事業が振るわない
	震う	声を震わせる
		身震い
	奮う	勇気を奮う
		奮い立つ
ふるって	奮って	奮って参加ください
ふれあう	触れ合う	
ふれる	触れる	
ふんいき	雰囲気	
【へ】		
へいそく	閉塞	
ぺーじ	ページ	△頁（論文中は使用することもある）
べき	べき	△可き
		そうすべきである
へきち	へき地	△僻地，［辺地］
へた	下手	
べんたつ	べんたつ	△鞭撻
【ほ】		
ほう	方	先方, 方針, 諸方
		君の方
ぼうだい	膨大	△厖大，［多大］
ほうる	放る	
ほか	ほか	原則ひらがなで
		ほかの意見，ほかから探す
	他（た）	
	外	思いの外
		＊殊の外
ほしい	欲しい	金が欲しい
		欲しがる
	～してほしい	見てほしい
ほそく	補足	
	捕捉	人工衛星を捕捉する
ほど	程	程遠い，程なく
		身の程
	ほど	先ほど，後ほど
		今朝ほど
	～ほど	少ないほど良い
ほとんど	ほとんど	△殆ど
ほにゅうるい	哺乳類	
ほぼ	ほぼ	△略

見　出　し	表　記	備　　考
ほまれ	誉れ	
ほめる	褒める	△誉める
ほんとう	本当	本当の話，本当に
【ま】		
まいしん		△邁進
まぎわ	間際	出発間際
まことに	誠に	誠に重要な問題である
		△真に，△実に
まさに	正に	正に指摘のとおりである
		△将に，△方に
まさる	勝る	△優る
まして	まして	△況して
まじめ	真面目	＊「まじめ」も可
まじる	交じる	漢字仮名交じり文
まず	まず	△先ず
ますます	ますます	△益々
		ますます増加する
また	又	又の機会，又聞き
また（接続詞）	また	また，～
または（接続詞）	又は	ａ又はｂ
まちがい	間違い	
まちがう	間違う	
まっさき	真っ先	真っ赤，真っ青
まったく	全く	
まっとうする	全うする	△完うする
まで	まで	△迄
		○日まで
まね	まね	△真似
まもなく	間もなく	
まれ	まれ	△希，稀
		世にもまれな話
まわり	回り	△廻り
		身の回り，胴回り，回る，回す
	周り	池の周り
		周りの人
まんなか	真ん中	

【み】		
み（接頭語）	み～	△御～，み霊，み代
み（接尾語）	～み	△～味
		弱み，有り難み
みいだす	見いだす	△見出す
みきわめる	見極める	
みごと	見事	△美事
みずから	自ら	自ら名乗り出る
みぞう	未曾有	
みたす	満たす	△充たす
みだりに	みだりに	△妄に，△濫に
みち	道	△路，径，途
みっか	三日	
みつける	見付ける	
みとる	見取る	
みなす	みなす	△見なす，見做す
みにくい	見にくい	△見難い
みにつける	身に付ける	△身につける
みのがす	見逃す	
みる	見る	△観る，看る，視る，覧る
		遠くの景色を見る
		面倒を見る
	診る	患者を診る，脈を診る
	～（て）みる	見てみる
【む】		
むしろ	むしろ	むしろこの方が便利だ
		△寧ろ
むずかしい	難しい	
むぞうさ	無造作	無造作に描く
むだ	無駄	無駄話
むとんちゃく	無頓着	
むなしい	むなしい	△空しい，虚しい
むね	旨	その旨，了承されたい
むやみ	むやみ	△無闇，無暗
		むやみに言い触らす
むろん	無論	無論正しい

見　出　し	表　記	備　　考
【め】		
めあて	めあて	＊授業や指導に
	目当て	おいては「めあて」と仮名表記
めいめい	銘々	銘々に分ける
めいりょう	明瞭	
めがね	眼鏡	
めぐる	巡る	寺を巡る
	めぐる	課題をめぐって
めざす	目指す	△目ざす
めざましい	目覚ましい	
めった	めった	△滅多
		めったやたらに
めでたい	めでたい	△目出度い
めど	めど	△目処
めやす	目安	
めんどう	面倒	御面倒をお掛けします
【も】		
もうしあげる	申し上げる	
もうしあわせ	申合せ	申し合わせる
もうしこむ	申し込む	
もうしこみ	申込み	申込書
もうしわけ	申し訳	
もうら	網羅	
もくと	目途	年末完成を目途とする
もくろみ	もくろみ	△目論見
もし	もし	△若し
もくしは（接続詞）	若しくは	ａ若しくはｂ
もたらす	もたらす	
もちろん	もちろん	△勿論
もつ	持つ	荷物（物体）を持つ
	もつ	責任（物体以外）をもつ
もって	もって	△以って
		～をもって
もっとも	最も	最も大切
	もっとも	もっともな御意見です
もっぱら	専ら	専ら仕事に力を入れる
もと	下	法の下に平等
		～という理念の下
	元	火の元，出版元
	本	本を正す
	基	資料を基にする
		基づく
もの	～もの	正しいものと認める
		～を示すもの
	物（物体として存在する物）	物を大切に扱う
	者（人間）	18 歳未満の者
もより	最寄り	最寄りの駅
もらう	もらう	△貰う
		～してもらう
もらす	漏らす	本音を漏らす
もろもろ	もろもろ	△諸々
【や】		
やかましい	やかましい	△喧しい
やくわり	役割	
やさしい	易しい	易しい問題
	優しい	優しい心遣い
やすい	安い	
	～やすい	△易い
		読みやすい
やっかい	厄介	
やむをえず	やむを得ず	
やわらかい	柔らかい	柔らかな毛布
		物柔らかな態度
	軟らかい	表情が軟らかい
		軟らかな土
やわらぐ	和らぐ	気持ちが和らぐ
【ゆ】		
ゆいしょ	由緒	
ゆうゆう	悠々	悠々自適
ゆえ	故	故あって，故なく
	～ゆえ	一部の反対ゆえにはかどらない
		それゆえ
ゆえに（接続詞）	ゆえに	ゆえに，～
		△故に
ゆがむ	ゆがむ	△歪む

見　出　し	表　記	備　　考
ゆくえ	行方	行方不明
ゆだねる	委ねる	
ゆるむ	緩む	緩やかだ
【よ】		
よい	良い ~~（評価）~~	
	よい	よい点，よりよい，都合のよい，よいこと，よい機会（指導要領の表現）
	～（て）よい（許可）	連絡してよい
	善い	善い行い
よけい	余計	費用が余計に掛かる
よごれる	汚れる	
よほど	よほど	△余程
よりどころ	よりどころ	△拠所
よる	よる	△依る，因る これによってよい
よろしく	よろしく	△宜しく
【ら】		
ら	～ら	△～等 これら，我ら
【り】		
りっぱ	立派	
【る】		
るす	留守	
【れ】		
れんが	れんが	△煉瓦
【わ】		
わが	我が	我が国，我が家
わかる	分かる	△解る，判る 気持ちが分かる
わけ	訳	訳がある，申し訳ない
わずか	僅か	
わずらう	煩う	思い煩う 人手を煩わす
	患う	胸を患う
わたくし	私	私事
わたし	私	
わたる	渡る	橋を渡る
	わたる	２行にわたる 細部にわたる
わびる	わびる	△詫びる
わりあい	割合	
わりに	割に	
われ	我	我々，我ら

☆　複合の<u>名詞</u>の場合，送り仮名を付けずに書くことができる。

受入れ	受渡し	打合せ	置場
買物	書換え	貸出し	期限付
組合せ	組替え	組立て	条件付
立会い	問合せ	取扱い	取決め
取消し	話合い	引継ぎ	見合せ
見積り	申合せ	申入れ	申込み
申立て	申出	持込み	呼出し
受付	奥付	貸出	箇条書
出入口	手続	手引	手引書
取組	日付	見取図	申込書
物語	役割		

など

※ 同一論文中では，表記を統一する。

参考：送り仮名の付け方について
「法令における漢字使用等について」
（平成 22 年 11 月 30 日付け内閣法制局長官決定）

【付録】公用文における漢字使用等について（文化審議会国語分科会作成）から抜粋

1　次のような代名詞は原則として漢字で書く。

＜例＞　俺，彼，誰，何，僕，私，我々

2　次のような副詞及び連体詞は，原則として漢字で書く。

＜例＞　副詞 余り，至って，大いに，恐らく，概して，必ず，必ずしも，辛うじて，極めて，殊に，更に，実に，少なくとも，少し，既に，全て，切に，大して，絶えず，互いに，直ちに，例えば，次いで，努めて，常に，特に，突然，初めて，果たして，甚だ，再び，全く，無論，最も，専ら，僅か，割に

＜例＞　連体詞 明くる，大きな，来る，去る，小さな，我が(国)

ただし，次のような副詞は原則として仮名で書く。　　＜例＞　かなり，ふと，やはり，よほど

3　次の接頭語は，その接頭語が付く語を漢字で書く場合は，原則として，漢字で書き，その接頭語が付く語を仮名で書く場合は，原則として，仮名で書く。

＜例＞ 御案内(御＋案内)，御挨拶(御＋挨拶)，ごもっとも（ご＋もっとも）

4　次のような接尾語は，原則として仮名で書く。

＜例＞ げ(惜しげもなく)，ども(私ども)，ぶる(偉ぶる)，み(弱み)，め(少なめ)

5　次のような接続詞は，原則として，仮名で書く。

＜例＞ おって，かつ，したがって，ただし，ついては，ところが，ところで，また，ゆえに

ただし，次の４語は，原則として漢字で書く。
及び，並びに，又は，若しくは